

# 特集 宗教×文学

対談 岸間卓蔵×富岡幸一郎 6

玄侑宗久 宗教って何? 32

山折哲雄 自前の言葉(文学)、日本の心(宗教) 36

松本佐保 アイルランド文学 カトリック信仰とケルト文化の一体化 41

河中郁男 メビウスの帯―梶井基次郎『檸檬』と『闇の絵巻』の間 45

## 名作再見

椎名麟三 骸骨 58

武田泰淳 美貌の信徒 83

二篇の再録に対して 富岡幸一郎 96

追悼・大江健三郎 悲しみもよく語る道化 司修 99

我が生還の記 一寸先は 佐川光晴 104

文科 『岡田(永代)美知代著作集』のこと 有元伸子 108

夜学生 以倉紘平 110

「未来」私考 相良敦子 112

創作 鎌倉幽世八景(7) 腹切やぐら 藤沢周 118

医学と文学の間(11) 大鐘稔彦 128

——「アウトサイダーの生涯」——  
乱雲の月―後光厳天皇の時代

続々南北朝は成立しなかった 松本徹 144

サクラ、散りぬる 荻野央 154

金木犀のかほり 佐久間研吾 167

宣告 瀬戸みゆう 179

終夢 没イチ男子九十歳超―オートフィクション 土井莊平 190

つなぐ旅 高塚基 206

遠き日々 映る影たち(1) 柴田翔 239

新連載

同人雑誌季評  
他者を思う 谷村順一 284  
リアルとファンタジー 河中郁男 291

連載 名作の舞台―記録と記憶⑨⑩  
宮本輝『螢川』・野坂昭如『火垂るの墓』 清水節治 116

明日行灯(2)  
櫻姫 麻田実 243

海の詩学―三島由紀夫 9  
ラディゲに憑かれた十五歳  
―詩「岬のわかれ」・小説「心のかじやき」を中心に― 鈴木ふさ子 248

学界への窓 19  
石坂洋次郎『陽のあたる坂道』  
―洋食と和食の対比構造と「おふくろの味」へ至る道 大野雅子 264

文藝季評 42  
リアリズムとリーダビリティ 伊藤氏貴 269

「私小説」を歩く第二十七回 島崎藤村  
苦悩は精神の支柱。 佐藤洋二郎 324

大倉山から 15  
近代能楽集から「潮騒」まで 松本徹 330

道元「正法眼蔵」の宇宙と人間(六)  
行持、有時、仏性―恒久普遍なるもの(二) 勝又浩 341

今号の中沢けい「中上健次と韓国」は休載となります。

啓

勝又浩 178  
松本徹 189

会員規約 348  
今号の執筆者 350  
編集後記 349

同人雑誌および会員から―― 272  
同人誌今昔 市原信夫  
文学国語は「科学国語」？ 世波貴子  
身分から契約 雄高敬介  
生かされて 各務麗至